



住所 〒547-0013 大阪市平野区長吉長原東 3-10-9
連絡先 ☎ 06-6708-0105 ☎ 06-6799-0401
校長 市場 達朗 **開校** 昭和 45 年
URL <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e751732>

運営に関する計画 【現状と課題】

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿とは、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することである。

これまでの「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却し、子どもたちの思考を深める「発問」を重視していくことや、子どもたち一人一人の多様性と向き合いながら一つのチームとしての学びを高めていくことが重要である。誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、一人一人の児童が生涯にわたって能動的に学び続けることをめざしていく必要がある。

本校の学校教育目標は、「子どもも大人もいきいきしている学校」であり、めざす子どもの姿は、「自分も人も大切に子ども」、「自分で考え、行動する子ども」、「自分からチャレンジする子ども」である。

こうした「めざす子どもの姿」を常に意識しながら、教科指導や生活指導など、学校生活のあらゆる場面で、その実現に向けて教育活動を進めていく。そして、「めざす学校の姿」は「学校と家庭と地域がひとつになって『自己肯定感』をもつ子どもを育てる教育活動を推進する」ことである。「自己肯定感」や「自己有用感」をもつことはとても大切な課題である。「授業を開く」や「地域に開く」など、学校が常にオープンに家庭や地域等との連携・協働した教育を推進することは必須である。常に子どもを真ん中にして、学校と家庭と地域をつなぐことができる学校運営に取り組んでいく。

運営に関する計画 【中期目標】

- 【安全・安心な教育の推進】**
- 令和7年度末の小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
 - 令和7年度末の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
 - 令和7年度末の学校アンケート調査の「自分からチャレンジしている」の項目について肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 【未来を切り拓く学力・体力の向上】**
- 令和7年度末の小学校学力経年調査の「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の項目について、最も肯定的に回答する児童の割合を35%以上にする。
 - 令和7年度末の小学校学力経年調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について最も肯定的に回答する児童の割合を68%以上にする。
 - 令和7年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。
- 【学びを支える教育環境の充実】**
- 令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
 - 令和7年度末の学校アンケート（サポーター）において「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている。」の項目について、肯定的に回答する割合を95%以上にする。
 - 令和7年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について肯定的な回答をする割合を85%以上にする。

令和6年度「みんながつくる みんなの学校 長原小」の教育

<大阪市教育振興基本計画（4年間 R4～R7）の最重要目標>

- 1「安全・安心な教育の推進」 2「未来を切り拓く学力・体力の向上」 3「学びを支える教育環境の充実」

学校教育目標 **子どもも大人もいきいきしている学校**

キーワード 「笑顔」で「元気」に「楽しく」

子どもに育みたい「3つの力」

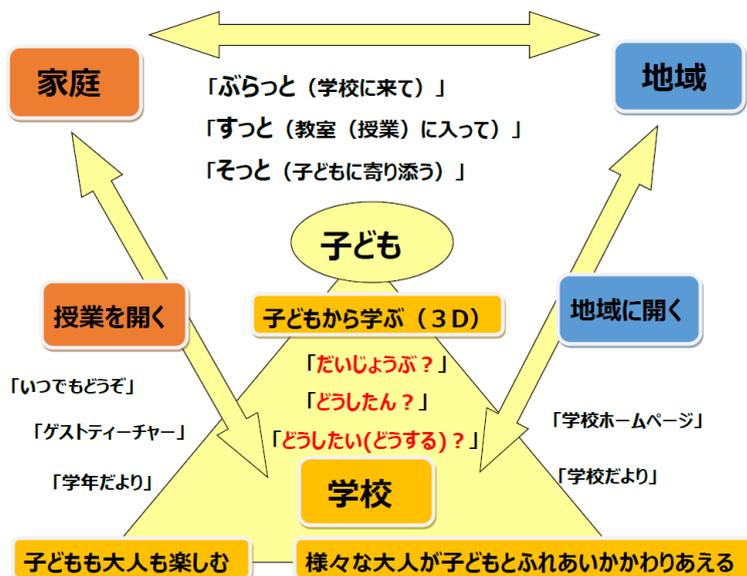
自分も人も大切にできる力	自分で考えて、行動する力	自分からチャレンジする力
<ul style="list-style-type: none"> 自分の思っていることを素直に言うことができる。 人にやさしく、思いやりを持って、接することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> どんな時でも、自分ならどうするかを考えることができる。 自分から進んで、見たり、聞いたり、話したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 失敗をおそれずに、チャレンジすることができる。 自分から進んで、見たり、聞いたり、話したりすることができる。 新しいことや、好きなことにチャレンジすることができる。

めざす大人の姿

- 子どもから学ぶ大人** ……「3つのD」で子どもを受け止め、信じて任せる大人
- すべての子どもを見守る大人** ……子どもを多方面から見つめ、違いを認め合える大人
- できないことは人の力を活用する大人** ……何事も抱え込まず、チームで動く大人

めざす学校の姿

学校・家庭・地域がひとつになって「自己肯定感」をもつ子どもを育てる教育活動を推進する。



R5年度「全国学力・学習状況調査」

国語	算数	平均正答率(%)
59	56	

●結果と概要

・国語は平均正答率59%で、大阪市平均より約8%低いが、「書くこと」については、平均正答率は25%と大阪市平均より0.8%高い。要旨をまとめたり、自分の考えを書いたりする力をつけることができている。「話すこと・聞くこと」は51.7%で、大阪市平均より20.7%低く、主体的・対話的で深い学びについての取り組みを中心に行っていく必要がある。

・算数は平均正答率が56%で大阪市平均より6%低い。図形の領域では、平均正答率が51.3%で、大阪市平均より3.5%高い。「データの活用」の領域は46.7%で、大阪市平均より16.9%低く、思考力・判断力・表現力に課題がある。

●取組の成果と課題

[国語] 言語力や論理的思考を目指し、自分の考えを持ち、意見を述べる、書く、まとめる活動を継続して行った。「書くこと」については、成果が出ているが、「話すこと・聞くこと」については、主体的・対話的で深い学びについての取り組みを重点的に行っていく必要がある。また、漢字検定も行い、語彙の学習に力を入れている。平均正答率が、大阪市平均を下回っているため、引き続き基礎基本の定着に粘り強く取り組んでいく。

[算数] データ活用領域の設問の正答率が特に低く、思考力・判断力・表現力に課題があるので、今後も引き続き習熟度別少数学習やチームティーチングを継続して行い、自分の考えを伝え合う言語活動を算数科においても取り組み、論理的に記述する力を身に付けさせていきたい。また、国語についても算数についても、「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」の質問には、90%以上の児童が肯定的な回答をしている。意欲的に取り組む姿勢を学力向上に繋げていきたい。

R5年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	合計 得点(点)
男子	13.14	18.86	26.25	46.38	60.50	9.11	147.58	18.64	52.17
女子	13.72	16.06	31.06	36.33	35.24	9.87	141.50	10.94	47.31

●結果と概要

男子は、反復横とび、20mシャトルラン、50m走において、大阪市・全国平均の記録を上回った。体力合計点においては全国平均をわずかに下回ったが、大阪市平均は上回った。女子は、20mシャトルランと立ち幅とびにおいて大阪市平均を上回ったが、体力合計点においては大阪市・全国平均を下回った。特に長座体前屈が課題である。また、アンケートにおいて「体育の授業は楽しいですか」の質問に楽しいと答えた割合は、男子78.6%、女子58.8%で、男子は大阪市・全国平均を上回り、女子は大阪市・全国平均と同等であった。他の質問項目からも、運動やスポーツをすることの意欲や意識は高いことがわかる。

●取組の成果と課題

学校全体で跳躍力をつけるための取り組みを数年前から続けていて、一定の成果が出ているが、数値が伸びるところまではいっていない。女子については上体起こし、ソフトボール投げに課題がある。また、長座体前屈については男女ともに課題がある。反対に20mシャトルランは、男女ともに大阪市平均を超えている。つまり、成果としては、跳躍力が市の平均レベルにまで伸びた。また、持久力は男女ともに大阪市平均を超えており、男子においては、全国平均よりも約13ポイント高くなっていて飛びぬけている。一方、課題としては、長座体前屈の数値が男女ともに市平均を5ポイント以下下回っており、柔軟体操などの準備運動や整理運動をしっかりとやる必要がある。

学校の特徴

長原タイム

- 子どもにつけたい「3つの力」を高める学び
- 「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現
(自由進度学習・探究学習・縦割り活動など)
- 主体的・自律的に行われる教師の学び
- 変化を前向きに受けとめて、常に学び続ける教師の学び
- 教師一人ひとりが当事者意識を持って、学びの楽しさを追究する学び

読書活動

本年度も読書活動の充実を目指し、取り組みを進めています。年間読書量を低学年、中学年、高学年ごとに目標を設定し、読書活動がより一層活発に行われるよう、ワークルームや図書室の整備に取り組んでいます。

また、全校児童で取り組む「ひらちゃん読書ノート」の活用や図書委員会による図書館開放や読書啓発活動、平野図書館のボランティアさんによる読み聞かせ、毎週火・金曜日の朝は「本につかる朝」(朝読書)なども行っています。



複数担当制&教科担当制

これまでの「学級担任」と「支援担任」の壁を取り払い、「複数による学級担当制」を行います。また、低学年から「教科担当制」を取り入れ、様々な大人が子どもたちに関わることができる体制をつくります。

これらの目的は、「子どもから学ぶ大人」「すべての子どもを見守る大人」の実現です。多くの大人が子どもたちに関わることで、様々な視点から子どもたちを見ることができ、子どもにとっての安心感を生むことができます。また、教員にとっても一人で抱え込むことなく、チームで子どもに関わることができるように、教科指導の負担感も減り、働き方改革にもつながります。

平野支援学校との交流

平野支援学校と連携し、両校の子ども達の間で様々な交流を深めるとともに、障がいに対する理解を深め、互いの違いを認め合い、命を大切に思う思いやりのある豊かな心身の育成に努めています。

各学期に1回程度の学年間の授業を通しての交流活動を中心に、本校児童主催の「長原ふれあいひろば」など交流活動を実施しています。



校長先生からのメッセージ

本校のスローガンは「みんながつくる みんなの学校 長原小」そして、「みんな」とは「自分」です。「子ども」「サポーター(保護者)」「教職員」「地域」など、学校にかかわるすべての人のことです。

「子どもにとっては、自分が通う学校を自分がつくる」
 「サポーターにとっては、自分の子どもが通う学校を自分がつくる」
 「教職員にとっては、自分が働く学校を自分がつくる」
 「地域にとっては、地域の宝である子どもが通う地域の学校を自分がつくる」
 「子どもも大人もいきいきしている学校」をめざして、教職員はひとつになって学校運営を進めていきます。これから子どもたちのために、ともに学校をつくっていきましょう。

校長 市場 達朗